

市民の皆さんの声（地域懇談会から）

市では、原発事故に伴う放射能に対する不安の声を聞くとともに、除染や健康対策などについて市の考えなどを説明するため、平成23年5月9日から5月26日まで、市内13カ所で地域懇談会を開催しました。



また、平成24年2月6日から2月29日まで地域懇談会を開催し、平成24年1月に策定した本宮市震災・原子力災害復興計画、除染計画について説明し、意見を伺いました。

さらに、高松市長は就任後3回目となる地域懇談会を平成25年5月7日から6月5日まで市内14カ所で開催し、除染の実施状況や平成25年度の事業概要について説明しました。

【平成23年5月開催】

開催日時	会 場	参加人数		
		男	女	計
5月9日	岩根 公民館	19	7	26
5月10日	松 沢 分 館	11	1	12
5月11日	北町コミセン	38	5	43
5月12日	長 屋 分 館	27	3	30
5月13日	稲 沢 分 館	27	3	30
5月17日	白 岩 分 館	12	0	12
5月18日	青田 公民館	10	2	12
5月19日	糠 沢 分 館	9	4	13
5月20日	高木 公民館	23	6	29
5月23日	和 田 分 館	27	5	32
5月24日	荒井 公民館	15	7	22
5月25日	サンライズもとみや	33	6	39
5月26日	仁井田 公民館	15	2	17
	合 計	266	51	317

【平成24年2月開催】

開催日時	会 場	参加人数		
		男	女	計
2月6日	和 田 地 区	30	8	38
2月10日	長 屋 地 区	17	1	18
2月13日	高 木 地 区	27	5	32
2月14日	荒 井 地 区	11	22	33
2月17日	白 岩 地 区	24	1	25
2月18日	仁 井 田 地 区	14	0	14
2月21日	岩根・関下地区	9	0	9
2月22日	稲 沢 地 区	25	2	27
2月23日	糠 沢 地 区	6	2	8
2月24日	北町コミセン	32	8	40
2月26日	サンライズもとみや	16	2	18
2月27日	青 田 地 区	11	0	11
2月29日	松 沢 地 区	10	0	10
	合 計	232	51	283

【平成25年5月～6月開催】

開催日時	会 場	参加人数		
		男	女	計
5月7日	北町コミセン	30	1	31
5月9日	稲 沢 分 館	30	0	30
5月10日	仁井田地区公民館	15	1	16
5月14日	白 岩 分 館	15	0	15
5月16日	岩根農業構造改善センター	9	2	11
5月20日	糠 沢 分 館	13	6	19
5月21日	荒井地区公民館	11	4	15
5月23日	長屋地区公民館	21	3	24
5月24日	高木地区公民館	21	2	23
5月27日	青田農業構造改善センター	10	1	11
5月28日	上関下集会所	9	5	14
5月30日	サンライズもとみや	24	3	27
5月31日	松 沢 分 館	19	2	21
6月3日	和 田 分 館	13	3	16
6月5日	下関下集会所	12	6	18
	合 計	252	39	291

放射能に対する不安が大きかった平成23年5月の地域懇談会では、放射能に対する早急な対策を求める市民の皆さんの声をたくさん伺いました。

それらの意見を反映して策定された、本宮市震災・原子力災害復興計画、除染計画について説明し意見を伺うため開催した平成24年2月の地域懇談会では、放射能対策と早急な住宅除染を求める声が多く聞かれました。

平成24年9月から和田地区から住宅除染は始まりましたが、平成25年5月から6月にかけて開催した地域懇談会では、住宅除染に関する質問のほか、市の振興策についての意見も多く伺いました。

高松市長は、市民の皆さんの意見を参考とし、震災対策、放射能対策、健康対策、風評対策などに取り組みました。

震災以降3回開催した地域懇談会から、意見・要望などの一部を紹介します。なお、紙面の都合上、各回の初回開催の地域懇談会から抜粋して紹介します。

平成23年5月9日 岩根地区

Q：いつになったら農耕センターの修理はできるのか。大体の目安の時期は。

A：災害復旧事業で修理したい。国・県の補助をもらいながらやっていくという形になる。時期については、補助金につき次第となるのでご理解いただきたい。

Q：個人で放射能測定できる機器は借りられないか。

A：市も借りているので、貸し出しはできない。

Q：野菜を持っていけば、市で放射能測定してくれるか。

A：1つ機械はあるが、難しく使いこなせない。専門機関に行って測定方法ができるような体制をとってみたいかと話しをしてきたばかりである。

Q：季節柄、山菜などが心配。

A：土壌から吸い上げるものがどのくらいなのか全くわからない。移行係数がわかっているのは稲だけであるが、国の言っている摂取制限を守るべきと考えている。

Q：クリーン作戦の時に刈った草・木は溜まる。溜まって処分するときに処分方法が問題。

A：環境省の話では、通常のごみと一緒に扱っていいということなので、袋に入れて焼却場に持っていき焼却できる。セシウムやヨウ素の付着が心配であるが、環境省の話では今のところはあまり心配しなくてもよいのではないかとのことである。

Q：放射能は子どもに関してはどうなのか。とても心配している。

A：幼稚園や保育所、小・中学校のお子さんをもつ家庭は心配だと思う。早く表土を取り除きたいと考えている。表土を3センチから5センチ削り、それを校庭の一角に穴を掘り、その中に汚染された土を埋める。その上に汚染されていない土を1m入れる。野口先生の話では、表に出てくる放射能は100分の1になる。

Q：稲の作付けができて一安心だが、秋の収穫時期に出荷できないといった場合、賠償はどうなるのか。

A：先日、農林水産大臣に要望書を提出した。風評についての補償をきちんとしてもらいたいと思いい、500ペクレルを超えた場合の補償をという話をしたが、明確な答えはなかった。今後も継続して要望をしていかなくてはいけないと思う。



Q：市の防災無線で水道水は基準値以下と言うが、数値的には検出されないのか。

A：水道水からは検出されていないので、安心して飲んでいただきたい。万が一を考えて梅雨の時期に入る前に、浄水場の池に屋根をかけた。

Q：本宮二中の保護者会で、今後についての話があった。仮校舎を3カ月以内につくりそこで勉強するようにという話だったが、そのような動きがあるのか。

A：本宮二中のプレハブは確保しており6月中にできると業者から確約をもらっている。

Q：荒井地区公民館で勉強しているが、体育館は雨が降ったとき音がうるさくて勉強にならない。また、気温が高かった日に体育館は30度を超えたと聞いた。対策は考えているのか。

A：エアコンをつけると多額のお金がかかる。まず市としてできることは、校庭の表土を剥いで安心できる値まで下げることである。暑いときは窓を開けてもいいような環境ができれば良いと思っている。各教室すべてエアコンというのは難しいと考えている。荒井地区公民館の現状は見ており、現状は理解しているが、仮設校舎ができればよくなると思う。

平成24年2月6日 和田地区

Q：国道4号、市役所本庁舎や本宮1Cがあることから、本宮市の発展のため西口の開発が最重要だと考える。

A：本宮は国道4号、東北本線で南北に分断されており、東西のアクセスがよくないということで、以前から自由通路の建設の要望がされてきた。それをふまえて駅周辺をどう開発していくか、真剣に取り組んでいきたい。

Q：人づくりの最重要事項として、今後公立の小中一貫教育を考えられないか。

A：いまのところ考えてはいない。学区制があり、それぞれの環境の違いがある。小学校の統合・校舎の新築などにかかる経費・通学などの問題がでてくるため慎重に考えていかなければならない。

Q：地域住民の意見を聞くことは大事だが、市の職員のアイデアを提案してもらい積極的に取り入れたらと思う。

A：地域住民の意見を聞くのも、職員の意見を聞くというのも必要である。急を要する場合はトップダウンもフットワークの良い行政には必要と考える。

Q：平成24年度の予算編成は。

A：大きな予算を占めるのは除染や復興計画であり、公約である財政健全化は守ったうえで予算編成案を作らせていただいた。市民サービスは低下させないように、市民の皆さんにも報告・意見のキャッチボールをしながら進めていきたい。100ペクレルを超えた田はゼロライトと珪酸カリを使用して耕作し、国の支援を受けたいと考える。そのほかは珪酸カリを配布したい。農水省では認



めていないが、国が責任をもって費用を負担すべきである。今のところ市独自の予算で実施する考えである。

Q：駅前に商業ビルを建てると賑やかになるのではないか。

A：行政でやるべきことと民間でやるべきことは、ある程度分けるべきものではないかと思う。今まで成功例がほとんどなく、生業として十分できるというものに関しては市も協力はするが、リスクを行政が負うということは極力避けたい。行政でできることは踏切の整備や駅舎のバリアフリー、東西の自由通路だと思っている。

Q：仮置き場を提供する場合に、どの程度の範囲まで了解を得なければならないか。

A：難しい問題である。残念だが市が提案すると全て反対される。学校の校庭放射性物質を埋設しても空間線量は変わらない事は検証されているが、なかなか理解していただけない。除染はしなければならぬし、決めていただければ管理は市でやらせていただく。



Q：本宮クリーンセンターで自宅除染した雑草や枯葉を焼却しても大丈夫なのか、科学的根拠は。

A：個数制限を設け焼却を認めているが、もとみやクリーンセンターにはバグフィルターが二重に装着されている。定期的に煙突の上や空間線量を測り全く影響はないということを確認している。

Q：「福島へのそのま本宮」というキャッチフレーズは少し汚いような感じがするので「ハートのま本宮」にしたらいのではないか。

A：本宮は福島の交通の要衝であって、工業出荷額が2,600億ある。いわき、郡山、福島に次いで県内4位である。本宮はポテンシャルがあり、どう活かしていくか、どう復興につなげるかが課題である。全国へそサミットというものがあり、加入している自治体同士で防災協定を結んだ。それに本宮市も加わった。

Q：将来、放射線が原因で病気になったときの補償は

A：因果関係がどうなるか難しいと考えている。医師との懇談会でいろいろ意見交換をいただいている。今の状況では、病気にはならないと言われる。

平成25年5月7日 北町コミュニティセンター

Q：今後の除染の進め方について、スピードアップをお願いしたい。計画はどうなっているのか。

A：現在長屋地区の除染を行なっている。和田地区は住宅除染がほぼ完了し、4ヘクタールの仮置き場の造成を行なっている。長屋地区も仮置き場の発注は完了している。次は高木もとみや台から除染に入る。早く仮置き場を決定して、除染したものを一時保管しないで直接仮置き場に搬入できる仕組みをつくっていききたい。

Q：除染にガンマカメラの使用を考えているか。

A：既に使用している。ガンマカメラは線量は表示はされないが線量の高い場所を映すとその部分が赤く表示される。国の除染センターで何台か所持しており、そこから各地へ貸出を行なっているが、市としても常時持っておきたいと思っており国に要望を続けている。

Q：地区の側溝清掃は今年もできないということか。

A：今年も行う予定はないが、早く仮置き場を決めて行いたいと思っている。

Q：家の前の公園の除染を行いそれを埋めてあり場所がわかるように印をつけてある。管理は市で行ない定期的に線量の測定もするとのことだが実際どうなのか。埋めた所の上にシートは被せてあるが、近隣に住む住民に説明不十分ではないか。

A：公園の除染については市で行なった。その後も線量の測定も行なっており、異常があった場合はお知らせする。除染は市の放射線のアドバイザーである野口先生に相談したうえで行なっている。除染でできた土についても、中間貯蔵施設ができればそちらへ搬入される。

Q：合併して5年が経過し合併時の目標人口があったと思うが、人口増加に対して何か対策はあるのか。

A：人口増の対策は、住環境や勤務のできる企業の立地、教育環境・子育て環境などが整っていることであると思う。合併から本市の人口は徐々に減ってきていた。震災後は毎月2ケタずつ人口が減ってきていたが、今年の1～3月は人口が増えた。4月は例年どおり90～100人程度減った。原発における人口減少は終わったと考えている。これは避難していた方々がある程度帰ってきたことや企業の立地が原因であると思われる。今後は、民間活力を利用しながら住宅団地の造成を行なえる形をとりながら住環境を整えていきたい。

Q：これから市と市民と一緒にできるソフト面の基本的な考えを聞きたい。

A：合併して6年目になり大きな震災を体験してしまった本宮市は進むべき方向を定めるために市民憲章を制定するべきであると考えている。市民の歌は市民の心をつなぐというためにも必要である。市民憲章と市民のうたはセットで行なっていきたい。本宮はもともと宿場町であり様々な文化が残っている。それらをどのようにして市内外の方々に知ってもらおうか検討しなければならない。

Q：災害時に避難所が停電になった場合のために太陽光発電施設を設置したと聞いたがそのことについて説明願いたい。

A：本宮小学校については25年に太陽光と蓄電池を設置した。蓄電池は満杯の状態です3日間はずようになっている。現在市内には5カ所設置してある。25年度中には新たに2カ所設置予定である。避難所になるところには整備したいと思っている。

